

**Oracle® Hardware Management Pack for
Oracle Solaris 11.2 リリースノート**



Part No: E56543-02
2015 年 11 月

Part No: E56543-02

Copyright © 2014, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	9
ソフトウェアリリースの情報	13
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris	13
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.2 の更新内 容	13
新機能	14
プラットフォームおよびコンポーネントのサポート	16
修正された問題	16
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント	19
インストールの注意事項と問題	21
Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.2 への更新にはリポジトリの設 定が必要である	21
Oracle Solaris ゾーンでのインストール	21
NVM Express 管理ツール (nvmeadm)	22
既知の問題と注意事項	23
Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題	23
SGX-SAS6-INT-Z HBA での Oracle Hardware Management Pack に よる診断を拡張する必要がある (20364298)	23
同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセ グメント例外 (16618057)	25
SPARC T3 システムで一部のユーティリティの実行速度が遅い (15720486、15705545)	25
fwupdate の既知の問題	26
Oracle Storage 12 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA の更新時にエラーメッセージ が表示される(19517770)	26
16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファーム ウェアバージョンが表示されない (17037795)	27

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには 電源の再投入が必要である (16562687)	27
Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージ を無視してもかまわない (15762571)	27
fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)	28
リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)	28
SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コントローラのファーム ウェアの更新に fwupdate を使用できない (21622963)	28
Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)	29
hwmgmtcli の既知の問題	29
Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーン情報に 関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)	29
Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーンデータが表示される (15732926, 15737206, 15737199)	30
hwmgmtcli list open_problems を実行すると、不完全な未解決の問題のレ ポートが表示されることがある (21787319)	30
ilomconfig の既知の問題	31
Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)	31
ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)	31
ipmitool の既知の問題	32
SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラー が発生することがある (15719015, 15691003)	33
raidconfig の既知の問題	33
ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示され る (20992189)	34
SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)	34
SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないこと がある (15782246)	34
3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)	35
RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスク の完了率が常に 0% を示す (15742034)	35
SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボ リュームの Mounted プロパティが表示されない (15666684)	35
LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、 ボリュームの名前が Null のままである (15675209)	36

MegaRAID HBA の RAID の読み取り/書き込みキャッシュに使用可能な追加の raidconfig オプション (21098717)	36
raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされない则表示される (22129034)	37
Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題	37
Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)	38
Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)	38
SNMP トラップの問題	38
Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する	39
ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)	39
SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電流センサーが間違って分類される (15687547)	39
sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)	40
SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (15566455)	40
SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない	40
ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (15675490)	40
sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)	41
SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)	41
Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)	41
ストレージビューアの既知の問題	42
Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (15645766)	42
Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)	42
Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティーが正しくない (15584958)	42
write_cache_enabled プロパティーが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)	43
SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用	43
ilomconfig (16369886)	43
hwmgmtcli (16507559)	45
itpconfig (16508501、16507898)	45
hwmgmtd (15824059、15824037)	45

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、Oracle Hardware Management Pack (HMP) for Oracle Solaris の最新のドキュメントとサポートの入手方法について説明します。フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も記載されています。

- [9 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris について」](#)
- [9 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [10 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [10 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [10 ページの「共著者」](#)
- [10 ページの「変更履歴」](#)

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris について

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris は、Oracle サーバーの管理に役立つコマンドとエージェントのセットであり、Oracle Solaris 11.2 以降では Oracle Solaris オペレーティングシステムの一部となりました。

以前のバージョンの Oracle Solaris の場合は、Oracle サポートのサイトからスタンドアロンバージョンの Oracle Hardware Management Pack を入手できます。

ドキュメントとフィードバック

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris の関連ドキュメントには次のようなものがあります。

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com

ドキュメント	リンク
Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris	http://www.oracle.com/goto/ohmp/solarisdocs
Oracle ILOM	http://www.oracle.com/goto/ilom/docs

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントは PDF および HTML の両方で入手可能です。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

共著者

このドキュメントの共著者は、Cynthia Chin-Lee、Lisa Kuder、David Moss、Ralph Woodley、Michael Bechler です。

変更履歴

ドキュメントには次の変更が加えられています。

- 2014 年 7 月。初版。
- 2014 年 12 月。バグ 19462769 について記載するために『リリースノート』を更新しました。
- 2015 年 1 月。Solaris 11.2 以降のハードウェア管理エージェントサービスの名前を修正するために、『*Management Agents ユーザーズガイド*』を更新しました。
- 2015 年 3 月。nvmeadm コマンドを追加するために、『*CLI ユーザーズガイド*』および『*インストールガイド*』を更新しました。ubiosconfig コマンドのエラーコードを追加するために、『*CLI ユー*

ーズガイド』を更新しました。全般的な編集上の改善およびその他のマイナーな技術的な更新を行いました。

- 2015 年 5 月。バグ 20364298 について記載するために『リリースノート』を更新しました。raidconfig コマンドを使用して使用可能なディスク上に RAID ボリュームを作成する際の警告を追加するために、『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。
- 2015 年 6 月。バグ 21098717 について記載するために『リリースノート』を更新しました。新しい raidconfig の読み取り/書き込みキャッシュオプションについて説明するために、『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。拡張されたディスク診断イベントに関するセクションを追加するために、『Management Agents ユーザーズガイド』を更新しました。全般的な編集上の改善およびその他のマイナーな技術的な更新を行いました。
- 2015 年 9 月。バグ 18048467、21563538、21622963、および 21787319 について記載するために、『リリースノート』を更新しました。リモートサービスプロセッサのファームウェアの更新における手動の電源再投入の要件について説明するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。
- 2015 年 11 月。リリースごとの機能リリースおよびバグ修正に関する情報を追加するために『リリースノート』を更新しました。nvmeadm のエラーコードを追加するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。

ソフトウェアリリースの情報

このセクションでは、次の情報について説明します。

- [13 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris」](#)
- [13 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.2 の更新内容」](#)
- [19 ページの「Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント」](#)

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris

このドキュメントは、Oracle Solaris 11.2 以上のバージョンを実行しているサーバーに適用されます。

Oracle Solaris 11.2 から、Oracle Hardware Management Pack はオペレーティングシステムに統合されたコンポーネントになります。Oracle Solaris 11.2 (以上) のオペレーティングシステムに対して特に保証されていないほかのバージョンの Oracle Hardware Management Pack をダウンロードしたり使用したりしないでください。

Oracle Solaris 11.1 以前またはほかのオペレーティングシステムを使用している場合は、<https://support.oracle.com> から個別のダウンロードとして使用可能なスタンドアロンバージョンの Oracle Hardware Management Pack を引き続き使用してください。



Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris は、Oracle サーバーの管理に役立つコマンドとエージェントのセットであり、Oracle Solaris 11.2 以降では Oracle Solaris オペレーティングシステムの一部となりました。

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris 11.2 の更新内容

このセクションでは、Oracle Hardware Management Pack (HMP) for Oracle Solaris 11.2 リリースでの変更点について説明します。

- [14 ページの「新機能」](#)
- [16 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」](#)
- [16 ページの「修正された問題」](#)

新機能

Oracle Solaris 11.2 SRU リリースの一部として次の新機能があります。

Release SRU 14 の機能 (HMP バージョン 2.3.3.0)

- ローカルホストの資格キャッシュを作成する `ilomconfig` 機能はサポートされなくなります。`ilomconfig` を使用して、以前に保存されたローカルホスト資格キャッシュを削除できます。追加の詳細は、[31 ページの「`ilomconfig` のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている \(21563538\)」](#)を参照してください。

Release SRU 9 の機能 (HMP バージョン 2.3.2.1)

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) からより多くのデータを収集するために、拡張された診断機能が追加されました (20364298)。これには、Solaris 環境および Linux 環境の RAID のディスクに生成されるさまざまなディスクエラーおよび SMART イベントが含まれます。これらのイベントは RAID 内の疑わしいディスクを特定しやすくするのに役立ちます。詳細は、『Oracle Server Management Agents ユーザーズガイド』を参照してください。

Release SRU 8 の機能 (HMP バージョン 2.3.2.0)

- 新しい X5 シリーズプラットフォームおよびコンポーネントのサポートが追加されました。詳細は、サポートマトリクスを参照してください。
- NVMe コントローラを構成するために `nvmeadm` ツールが追加されました。詳細は、『Oracle Server CLI Tools ユーザーズガイド』を参照してください。
- NVMe および NIC コントローラを更新するために新しいターゲットが `fwupdate update` コマンドに追加されました。詳細は、『Oracle Server CLI Tools ユーザーズガイド』を参照してください。
- Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID HBA が取り付けられているシステムでは、最初に RAID ボリュームを作成せずに、基礎になるオペレーティングシステムが直接ディスクにアクセスできるように、JBOD モードを有効にできます。詳細は、『Oracle Server CLI Tools ユーザーズガイド』を参照してください。
- `hwmgmt.conf` に `fast_updates_enabled` 機能を使用できます。これによって、より正確なディスクのモニタリングのために、ドライブの温度センサーのポーリング頻度を増やすことができます。

- Oracle VM が動作している SPARC サーバー上の Hardware Management Agent は、論理ドメインにインストールできます。これによって、プライマリドメインで Hardware Management Agent を使用して、論理ドメイン内で検出されたストレージデバイスをモニターできます。
- 最新の Oracle サーバーで検出された新しいセンサータイプを組み込むため、Oracle Hardware Management Pack の SNMP プラグインの一部である SUN-HW-MONITORING-MIB が拡張されました。
- ILOM-SYSTEM-MIB に基づいてイベントトラップを転送するため、itpconfig ツールが更新されました。Oracle ILOM Web インタフェースを使用して MIB (「ILOM Administration」>「Management Access」>「SNMP」) をダウンロードし、使用しているサーバーでこの MIB がサポートされることを確認できます。
- システムイベントログ (SEL) のモニタリングは、Hardware Agent (hwmgmt) では無効になっています。SEL および障害ベースのトラップにアクセスするには、次のいずれかのツールを使用します。
 - ipmievd ユーティリティを使用して、IPMI SEL イベントを Oracle ILOM から syslog に記録します。

ipmievd は、Oracle Hardware Management Pack の ipmitool パッケージの一部であるバイナリです。詳細は、ipmievd.8 のマニュアルページを参照してください。
 - itpconfig (Oracle ILOM トラッププロキシ) を使用し、ホストと ILOM の相互接続機能を使用して Oracle ILOM からホストに SNMP トラップを直接転送します。SNMP トラップを送信するように Oracle ILOM を構成する方法については、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。itpconfig の使用に関する詳細は、『Oracle Server Management Agents ユーザーズガイド』を参照してください。

注記 - FRU (フィールド交換可能ユニット) の追加/削除トラップおよびストレージデバイストラップは、管理エージェント (hwmgmt) によって引き続き処理されます。これらのトラップを受信するには、管理エージェントをインストールして実行している必要があります。

Release SRU 2 の機能 (HMP バージョン 2.2.8.3)

- X5 シリーズプラットフォームおよびコンポーネントのサポートが追加されました。詳細は、サポートマトリクスを参照してください。

Oracle Solaris 11.2 の初期リリース (HMP バージョン 2.2.8.1)

Oracle Hardware Management Pack は、Oracle Solaris 11.2 に統合されました。

プラットフォームおよびコンポーネントのサポート

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のリリースごとの新しいプラットフォームおよびコンポーネントのサポートに関する詳細は、システム管理サポートマトリックスの Web ページを参照してください。新しいプラットフォームおよびコンポーネントは定期的に追加されます。それらが追加されると、リリース固有のサポートマトリックスのリンクが、そのリリースでサポートされるすべての製品およびコンポーネントのスーパーセットが含まれているメインページに追加されます。

すべてのバージョンのサポートマトリックスへのリンクは次の場所にあります。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp>

修正された問題

Oracle Solaris 11.2 SRU リリースで修正された Oracle Hardware Management Pack の問題を次に示します。最新の SRU を常にご使用することをお勧めします。

Release SRU 14 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.3.0)

- 複製されたディスクイベントはイベントログで 1 つに統合されるべきである (21495102)
- 複数の Ethernet カードのネットワーク接続構成の場合、管理エージェントによって ILOM がハングアップすることがある (21439951)
- -H オプションを指定して fwupdate を実行したときに、ローカルの ILOM 資格情報を取得しようとする (21086520)
- リモート ILOM の更新: コマンドを起動したホストがリブートされる (18048467)
- HMP からの資格情報の格納機能の削除 (21563538)
- sunStorageMIB のクエリー出力のコンポーネント名に予期しない「%s」文字がある (21657443)

Release SRU 13 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.5)

- ゲストドメインで hwmgmt がハングアップすることがある (21259322)
- hwmgmt によってメモリー使用量が徐々に増加する (20764702)
- /etc/ssh/hwmgmt.conf は IPS パッケージ hwmgmt で編集不能なファイルである (21264661)
- fwupdate がアラームクロックメッセージを表示して終了する (21330923)

Release SRU 12 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.4)

- `ilomconfig` のホストプロファイルのリセットによって削除されない以前のホストプロファイルの更新がある (21207930)
- エラーメッセージ、およびコントローラのエラー時の動作を改善するために `nvmeadm` を変更する (21093595)

Release SRU 11 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.3)

- ユーザー警告: `raidconfig` でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)
- SPARC: LDG1 で `fwupdate list disk` を実行すると、「Message Get Device ID command failed Unknown (0x7E)」が表示される (21049992)
- Oracle Solaris 11.2 SRU 8 で `nvmeadm` が M10 に対して動作しない (20829055)
- RAID ボリュームの作成時に、キャッシュモード `NRWTC` がデフォルトで構成される (20988172)
- `raidconfig` が MegaRAID モデル 9261-8i のキャッシュステータスを間違えて報告する (20845581)
- MOS バージョンの HMP がインストールされている場合に、Solaris 11.1 から 11.2 SRU 8 にアップグレードするとエラーが表示される (21136438)
- SPARC: サービスの起動時間を短縮するために、HMP `libs` はプラットフォーム名をキャッシュするべきである (21136843)
- システムの起動時に、`svc` の依存関係のために SP/管理の前に `ilomconfig` を実行する必要がある (21108476)
- RAID キャッシュの設定が `raidconfig` のマニュアルページで変更された (21098717)
- 誤解を招く「失敗」メッセージを削除するために `host_profile` メッセージをクリーンアップする (21181271)
- メッセージ「`hwmgmtd reset is set to on`」はコンソールに表示されるべきではない (ログファイルにのみ表示する) (21180841)
- BIOS のアップグレードが失敗したときに、`ubiosconfig` が不正確なエラーメッセージを報告する (21155720)
- HMP エージェントでメモリーリークが発生する (21151019)
- Oracle Solaris 11.2 SRU 4.6 (SPARC) で `/sbin/ipmitool` にスイッチ「`-l lanplus`」を指定すると、コアダンプが出力される (20457919)

Release SRU 10 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.2)

- 子プロセスが強制終了されたときの `hwmgmtd` の正しくないログメッセージを修正する (20905150)
- 一部のコマンドで出力される一部の `nvmeadm` メッセージが明確でない (20898666)

- nvmeadm getlog で使用可能なエラーログに正しい値が報告されない (20884169)
- Solaris 11 でホストと ILOM の相互接続を使用するプロセスの起動時間の改善 (20868703)
- raidconfig を使用してサブディスクを持つ RAID の構成をインポートするときに、コントローラで複数の RAID が変更されていた場合、最初の RAID の変更されたプロパティのみがインポートされる (16494064)
- SPARC システムの fwupdate に自動電源再投入のサポートを追加する必要がある (15775719)
- hwmgmt がベンダーツール quaccli および hbacmd ではなく Oracle Solaris の fcinfo を使用してファイバチャネルアダプタに関する情報を収集するようにする (20984781)
- hwmgmt からベンダーツール quaccli を使用すると、FC ストレージリンクがオフライン/オンラインになる (20950982)
- ホストプロファイルのタイムスタンプを更新する必要がある (20967978)
- SPARC: nvmeadm の getlog -h の出力で不明確な値が表示される (20925705)
- ビジー状態のデバイスをオフラインにしようとするときの nvmeadm のメッセージが明確ではない (20924121)
- nvmeadm のオンラインデバイスの format および import のエラーメッセージにデバイス名を含めるべきである (20923927)
- nvmeadm の import/export サブコマンドの機能が適切に文書化されていない (20884222)
- ホストと ILOM の相互接続のネットマスクを変更するときに「ERROR: Internal error」が表示される (20815962)
- ilomconfig で問題のない「Unable to get mutex」ログメッセージが報告される (20761474)

Release SRU 9 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.1)

- Netra X5-2 で nvmeadm がサポートされない (20572107)
- 誤解を招くようなエラーを ilomconfig が報告する (20549914)
- X5-4 で「list all」オプションを使用したときに fwupdate がエラーを返す (20433480)
- X4-8 で fwupdate が Intel LAN on Motherboard の更新に失敗する (19790933)
- ubiosconfig で「BIOS configuration not accessible」エラーが正しく解析されない (20673119)
- SPARC システムでの HMP によるドライブの不要なポーリングを排除する (20664342)
- Oracle Solaris 11.2 SRU 8 で hwmgmt がコアダンプを出力する (20636323)
- ルート配下に Core.hwmgmt.xxxx ファイルがたびたび作成される (20609628)
- 削除したゲストドメインが引き続き報告される (20586180)
- ストレージコンポーネントが表示されるときと表示されないときがある (20686854)
- X5-8: Windows から呼び出された IPMITool が間違った DIMM FRUID データを表示する (20638554)

- KCS インタフェースで IPMITool sunoem CLI が SP への接続を正常に閉じない (19773825)

Release SRU 8 で修正された問題 (HMP バージョン 2.3.2.0)

- 大量の SAS ストレージによって ILOM がリセットされることがあり、重要ではない SAS 情報を排除する必要がある (20366031)
- /System/Firmware/Other_Firmware に間違ったディスク ID 番号が表示される (20173839)
- fwupdate が「ERROR: Platform not supported」というメッセージを表示して失敗する (19207713)
- Solaris で Emulex ファイバチャネルアダプタを更新できない (20403230)
- Solaris で Emulex ファイバチャネル FCoE アダプタを更新できない (20403226)
- fwupdate が Emulex ファイバチャネルアダプタの情報を表示しない (20507113)
- 可能な場合はコントローラのシリアル番号を表示する (20515989)
- fwupdate コマンド行のヘルプの一般的なオプションに、ヘルプの短いオプション (-?) が表示されるべきである (20395086)
- HMP が起動したサードパーティツールがハングアップし、ほかの HMP プロセスもハングアップさせることがある -- ハングアップするツールを終了させるために起動ツールのタイムアウト制御が必要である (19589977)

Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris のドキュメント

完全なドキュメントは次の場所で入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp/solarisdocs>

インストールの注意事項と問題

問題	回避方法
21 ページの「Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.2 への更新にはリポジトリの設定が必要である」	あり
21 ページの「Oracle Solaris ゾーンでのインストール」	なし
22 ページの「NVM Express 管理ツール (nvmeadm)」	該当なし

Oracle Solaris 11/11.1 から Oracle Solaris 11.2 への更新にはリポジトリの設定が必要である

Oracle Hardware Management Pack がインストールされている Oracle Solaris 11 または Oracle Solaris 11.1 を使用している場合に、Oracle Solaris 11.2 に更新するには、Oracle Solaris 11.2 に更新する前に、Oracle Hardware Management Pack リポジトリを設定してください。これは、Oracle Hardware Management Pack パッケージが以前は `mp-re` というリポジトリ内にあり、現在は `SSM (Single Server Management 統合)` というリポジトリ内にあるためです。

回避方法

Oracle Solaris 11.2 に更新する前に、次のコマンドを入力します。

```
#pkg set-publisher --non-sticky mp-re
```

Oracle Solaris ゾーンでのインストール

Oracle Hardware Management Pack パッケージはすべての Oracle Solaris ゾーンにインストールされます。

Oracle Solaris 10 および Solaris 11 の両方に含まれる Oracle Hardware Management Pack ユーティリティーには、非大域ゾーンでの機能に制限があるか、その機能がまったくありません。

次の Oracle Hardware Management Pack ユーティリティーは非大域ゾーンでは動作しません。

- biosconfig
- fwupdate
- ilomconfig
- itpconfig
- raidconfig
- ubiosconfig
- hwmgmtcli
- hwmgmtd (管理エージェント)

LAN インタフェースを非大域ゾーンで使用する場合には、このユーティリティーは機能しません。

- ipmitool

NVM Express 管理ツール (nvmeadm)

Oracle Solaris 11.2 SRU 8 以降では、Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris には NVM Express 管理ツール (nvmeadm) が含まれています。

このツールを使用すると、Oracle サーバーで NVMe ストレージデバイスを管理できます。このツールがサポートされるサーバーのリストについては、Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris サポートマトリックスを参照してください (<http://www.oracle.com/goto/ohmp>)。

既知の問題と注意事項

- [23 ページの「Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題」](#)
- [26 ページの「fwupdate の既知の問題」](#)
- [29 ページの「hwmgmtcli の既知の問題」](#)
- [31 ページの「ilomconfig の既知の問題」](#)
- [32 ページの「ipmitool の既知の問題」](#)
- [33 ページの「raidconfig の既知の問題」](#)
- [37 ページの「Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題」](#)
- [42 ページの「ストレージビューアの既知の問題」](#)
- [43 ページの「SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用」](#)

Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題

次の表に示されている問題は、Oracle Hardware Management Pack のすべてのツールに関連しています。

問題	回避方法
23 ページの「SGX-SAS6-INT-Z HBA での Oracle Hardware Management Pack による診断を拡張する必要がある (20364298)」	該当なし
25 ページの「同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセグメント例外 (16618057)」	なし
25 ページの「SPARC T3 システムで一部のユーティリティの実行速度が遅い (15720486, 15705545)」	なし

SGX-SAS6-INT-Z HBA での Oracle Hardware Management Pack による診断を拡張する必要がある (20364298)

Oracle Solaris 11.2 SRU 10 では、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) に接続されたディスクからより多くのデータを収集するために拡張された診断

機能が追加されました。これには、さまざまなディスクエラーおよび SMART イベントが含まれます。また、これらのイベントによって、RAID ボリュームの論理ディスク内の疑わしい物理ディスクが特定されます。これらのイベントは、ハードウェア管理エージェント (svc:/system/sp/management:default) の実行中に収集され、/var/log/ssm/event.log に記録されます。

次の表には、ログに記録された拡張診断イベントが一覧表示されています。

ログ内のイベント名	説明
PD_RECOVERED_ERROR	回復したディスクエラーが検出されました。
PD_BAD_DEVICE_FAULT	コマンドの実行中に、デバイスで回復不可能なドライブ障害が検出されました。
PD_MEDIA_ERROR	デバイスで回復不可能なメディアエラーが検出されました。
PD_DEVICE_ERROR	デバイスで回復不可能なハードウェア障害が検出されました。デバイスがオフラインになっているか、機能が低下している可能性があります。
PD_TRANSPORT_ERROR	トラnsポートが不安定であるため、デバイスへのパスの構成が解除されました。
PD_OVER_TEMPERATURE	ディスクの SMART プロセスによってクリティカルな温度が報告されています。
PD_SELF_TEST_FAILURE	1 回以上のディスクの SMART 自己診断に失敗しました。
PD_PREDICTIVE_FAILURE	SMART ヘルスモニタリングファームウェアはディスク障害が差し迫っていることを報告しました。

コントローラは定期的な間隔でボリュームの各物理ディスクをポーリングします。ディスクエラーが発生すると、コントローラによってイベントが生成されます。そのイベントはハードウェア管理エージェントによって取得され、ハードウェア管理イベントログに入れられます。

ハードウェア管理イベントログ内のイベント情報を表示するには、次のように入力します。

```
# view /var/log/ssm/event.log
```

ディスクイベントの場合は、次のような情報が表示されます。

```
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Event Name : PD_MEDIA_ERROR
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Event Description : A medium error was
detected by the device that was non-recoverable.
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) ASC : 0x10
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) ASCQ : 0x3
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Sense Key : 0x3
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Source : LSI
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) SAS Address : 0x5000cca01200fadd
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) LSI Description : Unexpected sense: PD
0c(e0xfc/s1) Path 5000cca01200fadd, CDB: 2f 00 00 fc 4d 42 00 10 00 00,
Sense: 3/10/03
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Event TimeStamp : 04/30/2015 ; 19:30:25
```

```

Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Node ID : 00000000:12
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Nac Name : /SYS/HDD1
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Serial Number : 001015N0JPXA PMG0JPXA
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) WWN No : PDS:5000cca01200fadd
Thu Apr 30 12:32:31 2015:(CLI) Disk Model : H106030SDSUN300G

```

イベント一覧の情報を使用すると、問題が発生しているシステム内の物理ディスクを特定できます。Oracle ILOM の NAC 名などの情報 (システムのフロントパネル上のラベルに一致) およびドライブのシリアル番号は、システム内のディスクおよびそのドライブスロットを識別する際に役立ちます。

注記 - PD_OVER_TEMPERATURE、PD_SELF_TEST_FAILURE、および PD_PREDICTIVE_FAILURE イベントの場合、Oracle ILOM を使用して積極的な警告を構成します。

このドキュメントで説明したその他のディスク診断イベントの場合は、ディスクの問題が疑われるときに、これらのディスクイベントについてハードウェア管理イベントログを確認することは管理者の責任となります。現在、このようなイベントを積極的に通知する警告メカニズムがありません。

同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセグメント例外 (16618057)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 8 で修正されました。

同じ種類のストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムで fwupdate、raidconfig、hwmgmtcli、または hwmgmt を実行している場合は、セグメント例外が発生します。

SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (15720486、15705545)

SPARC T3 システムでの実行時に、hwmgmt ユーティリティーが正確な結果を表示しないことがあります。

Oracle Hardware Management Pack のほかのユーティリティーの中には (raidconfig や hwmgmtcli など)、SPARC T3 システムでの実行速度が非常に遅いものもあります。

これらの問題は、問題 6937169 に記載されている Oracle Solaris の問題が原因で発生します。

回避方法

1. 影響を受けているユーティリティを無効にします。
2. mdb のドキュメントを読んでから、次のコマンドを入力してください。

```
# mdb -kw
> ddi_aliases_present/W 0
```

3. ユーティリティを再度有効にします。

fwupdate の既知の問題

問題	回避方法
26 ページの「Oracle Storage 12 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA の更新時にエラーメッセージが表示される(19517770)」	あり
27 ページの「16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェアバージョンが表示されない (17037795)」	なし
27 ページの「Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)」	なし
27 ページの「Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)」	なし
28 ページの「fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)」	あり
28 ページの「リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)」	あり
28 ページの「SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コントローラのファームウェアの更新に fwupdate を使用できない (21622963)」	なし
29 ページの「Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)」	あり

Oracle Storage 12 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA の更新時にエラーメッセージが表示される(19517770)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 5 で修正されました。

fwupdate を使用して Sun Storage 12 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA のファームウェアを更新するときに、次のようなエラーを受け取ることがあります。

```
Error: Firmware download failed for component
Extended Error: Firmware upgrade attempt failed
ERROR: Firmware download failed for component
```

回避方法

システムをリブートすると、ファームウェアの更新が適用されます。

16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェアバージョンが表示されない (17037795)

16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) が NIC または CNA モードになっているとき、fwupdate list コマンドは EFI、FCODE、および BIOS のバージョンを表示しません。

これは、サーバーのオペレーティングシステムに関係なく発生します。

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM を 3.1.2.20 よりも前のバージョンからバージョン 3.1.2.20 またはそれ以降にアップグレードするときは、サーバーの電源を再投入する必要があります。ファームウェアの更新後にサーバーの電源が自動的に再投入されるように設定されていない場合は、ホストの電源を切断し、数分後に再度電源を投入します。

Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)

Emulex ファイバチャネルカード用にファームウェアのアップグレードを行なっているときは、次のエラーメッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは無視してかまいません。

```
Updating c3: lpfc 0000:b0:00.0: 0:1306 Link Up Event in loop back
>>>> mode x1 received Data: x1 x1 x20 x1
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:1309 Link Up Event npiv not supported in loop
>>>> topology
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> Success
```

fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)

fwupdate を使用して Hitachi H101414SC 146 GB ディスクドライバ用のファームウェアのダウングレードを試みた場合、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されることがありますが、fwupdate はこのデバイスでのファームウェアのダウングレードをサポートしていません。

回避方法

現在のファームウェアバージョンを、更新するバージョンと比較します。現在のバージョンの方が新しい場合は、ファームウェアを更新しないでください。

リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 14 で修正されました。

fwupdate を使用してネットワーク経由でリモートシステムの Oracle ILOM サービスプロセッサを更新したあとに、更新されたシステムが自動的にリブートしません。

回避方法

Oracle ILOM SP のリモート更新の実行後は、更新を有効にするために、リモートシステムの電源を手動で再投入してください。ファームウェアの更新後は、サービスプロセッサをリセットするために電源の再投入が必要となります。

SPARC の一部の Intel ベースのオンボード Ethernet コントローラのファームウェアの更新に fwupdate を使用できない (21622963)

オンボードの Ethernet コントローラ (「LAN On Motherboard」または「LOM」とも呼ばれます) を持つ一部の SPARC システムで、fwupdate がコントローラの詳細を取得できません。この情報がない場合、fwupdate を使用してコントローラのファームウェアを更新できません。

SPARC システムのファームウェアを更新する前に、fwupdate list を使用して情報を表示します。システムのオンボードネットワークコントローラのデバイス情報 (現在のファームウェアバージョンなど) が出力に表示されない場合は、fwupdate を使用してコントローラのファームウェアを更新できません。

この問題は、一部の SPARC システムのネットワークインタフェースコントローラで発生します。ほかのデバイスに対しては、fwupdate コマンドを正常に実行できます。fwupdate の使用がサポートされているシステムおよびコントローラのリストについては、サポートマトリックスを参照してください (<http://www.oracle.com/goto/ohmp>)。

これらのシステムのオンボードネットワークコントローラのファームウェアを更新する必要がある場合は、Oracle サポートに連絡してください。

Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)

fwupdate コマンドを使用した Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新が失敗することがまれにあります。この問題は、Oracle System Assistant を使用してアダプタのファームウェアを更新しようとしたときにも発生することがあります。

回避方法

この問題が発生した場合は、fwupdate コマンドを使用してアダプタのファームウェアの更新を再試行します。障害が続く場合は、Oracle のサポートに連絡してください。

hwmgmtcli の既知の問題

問題	回避方法
29 ページの「Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)」	あり
30 ページの「Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーシデータが表示される (15732926, 15737206, 15737199)」	あり
30 ページの「hwmgmtcli list open_problems を実行すると、不完全な未解決の問題のレポートが表示されることがある (21787319)」	なし

Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15762248)

hwmgmtcli コマンドを実行すると、次のようなシャーシ情報に関するエラーが返されます。

```
Chassis Model: ERROR
Chassis Address: ERROR
```

回避方法

このエラーを回避するには、Oracle ILOM 3.1 にアップグレードします。

Sun Blade X6270 M2 で誤ったシャーシデータが表示される (15732926、15737206、15737199)

Sun Blade X6270 M2 サーバーモジュールで `hwmgmtcli` コマンドを使用してシャーシ情報を表示すると、シャーシに関する一部の情報が欠けています。

回避方法

Oracle ILOM CMM を使用してシャーシ情報を表示します。

`hwmgmtcli list open_problems` を実行すると、不完全な未解決の問題のレポートが表示されることがある (21787319)

Oracle Solaris 11.2 SRU 14 を実行している場合、特定のまれな状況で、`hwmgmtcli list open_problems` コマンドでホストがストレージデバイスで検出した未解決の問題が表示されないことがあります。または、ホストで検出されたストレージの問題の表示が不完全であったり、ストレージ以外のほかの既存の未解決の問題が上書きされたりすることもあります。この問題が発生する場合は、次のような状態になっています。

1. Oracle ILOM で `/System/Storage/health` が正常であると報告される。
2. Oracle ILOM が診断できないストレージの問題をホストが診断した。

このような状態では、`hwmgmtcli list open_problems` の出力が次のように間違っていることがあります。

- Oracle ILOM に未解決の問題がない場合は、すべての種類の未解決の問題が表示されません。
- ホストで検出されたストレージの問題が見つかった場合は、`hwmgmtcli` の出力で既存の Oracle ILOM の問題が置き換えられる問題のみが表示されます。たとえば、Oracle ILOM に 2 つの問題が存在し、ホストがストレージの問題を 3 つ検出した場合、`hwmgmtcli` は 2 つのストレージの問題のみを表示します (Oracle ILOM の 2 つの問題を置き換える)。

この問題の回避方法はありません。起こりうるストレージの問題を評価する場合は、最初に Oracle ILOM を使用して、診断可能なストレージの問題に関するできるだけ多くの情報を収集します。その後、`hwmgmtcli` を使用して、Oracle ILOM が診断できないストレージの問題に関する追加情報を取得できるかどうかを確認します。ホストのログ、および使用可能な OS やベンダーのストレージコントローラ用ツールを使用して、さらに問題を調査することもできます。

ilomconfig の既知の問題

問題	回避方法
31 ページの「Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)」	あり
31 ページの「ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)」	あり

Oracle ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)

バージョン 3.0.9 以前の Oracle ILOM には、ilomconfig コマンドが「Cannot connect to BMC」というエラーで失敗する原因となり得る制約があります。これらのエラーは、複数のプログラムが Oracle ILOM の IPMI インタフェースへのアクセスを試みる場合に発生することがあります。

このようなエラーが発生した場合、Oracle ILOM はこのエラーを修復する必要があります。この修復は、Oracle ILOM が提供するサービスに 1 - 2 分の混乱が生じることを意味する可能性があります。

回避方法

このエラーを回避するには、ilomconfig の使用前に Hardware Management Agent および Storage Monitoring Agent を無効にします。また、ilomconfig の実行時に、Oracle ILOM へのほかのすべての IPMI アクセス (ipmitool の使用など) を行わないようにします。

ilomconfig のホストの資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)

Oracle Solaris 11.2 SRU 14 以降では、ホストと ILOM の相互接続を介した Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) へのアクセスを容易にするために使用されるホスト資格キャッシュ機能が無効にされています。ilomconfig create credential コマンドでは、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードの情報を格納するためにホストに資格キャッシュファイルが作成されなくなります。既存の資格キャッシュも、Oracle ILOM SP にアクセスする Oracle Hardware Management Pack コマンドで使用されません。

この変更は、Oracle ILOM 3.2.4 より前のバージョンのシステムでのみ、システムのローカル SP にアクセスする一部の Oracle Hardware Management Pack コマンド (fwupdate、ilomconfig、ubiosconfig など) が発行される動作に影響します。これらのシステ

ムの場合、LAN インタフェース (ホストと ILOM の相互接続または Ethernet ネットワーク接続) を使用するには、SP にアクセスするコマンドに `-H` および `-U` オプションを使用して資格情報を手動で含める必要があります。資格情報を指定しない場合、これらのコマンドはデフォルトの低速なローカル KCS インタフェースを使用してローカルの Oracle ILOM SP にアクセスします。

Oracle ILOM バージョン 3.2.4 以降のシステムの場合は、ホストと ILOM の相互接続を介してローカルの SP にアクセスするコマンドを実行するときに、資格情報を含める必要はありません。ネットワーク接続を使用して SP にアクセスするコマンドを実行するときは、資格情報を手動で含める (`-H` および `-U` オプションを使用) 必要があります。

以前に保存されたホスト資格キャッシュを削除する機能は、`ilomconfig delete credential` コマンドを使用することによって引き続きサポートされます。

回避方法

ローカルの Oracle ILOM SP (3.2.4 より前のバージョン) にアクセスする Oracle Hardware Management Pack コマンドにより高速な LAN インタフェースを使用するには、コマンド行で必要なユーザー資格情報を手動で入力する必要があります。必要なパスワードは、stdin にパイプしてスクリプトで使用することもできます。

例:

```
■ ilomconfig list system-summary --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username
■ cat passwdfile | fwupdate list all --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username
```

ここで、`sp_ip` は Oracle ILOM SP の IP アドレス、`username` は root 権限を持つ Oracle ILOM のユーザーアカウント、および `passwdfile` はユーザーが作成した、Oracle ILOM ユーザーアカウントのパスワードが含まれているファイルです。

注記 - 上記の例では、ネットワークポートではなくローカルホストと ILOM の相互接続を使用して SP にアクセスするために、`ilomconfig list interconnect` コマンドを使用して IP アドレスを取得しています。

ipmitool の既知の問題

問題	回避方法
33 ページの「SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)」	あり

SP のブート時に SPARC T3-4 ホストに電源が入っていると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)

SPARC T3-4 ホストの電源が入っているときに SP をブートすると、次のエラーが表示されることがあります。

```
SP communication failure....Please start IPMI
```

この状態では ipmitool は機能しません。

回避方法

このエラーが発生した場合は、ホストをリブートしてエラーをクリアします。

raidconfig の既知の問題

問題	回避方法
34 ページの「ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)」	該当なし
34 ページの「SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)」	あり
34 ページの「SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)」	あり
35 ページの「3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)」	なし
35 ページの「RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)」	なし
35 ページの「SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティが表示されない (15666684)」	あり
36 ページの「LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)」	なし
36 ページの「MegaRAID HBA の RAID の読み取り/書き込みキャッシュに使用可能な追加の raidconfig オプション (21098717)」	該当なし
37 ページの「raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)」	あり

ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)

raidconfig を使用すると、コントローラおよび接続されているディスクをスキャンして、RAID ボリューム内にすでにあるディスクまたは RAID ボリュームに含めることができるディスクを一覧表示できます。ただし、raidconfig は、使用可能なディスクにデータが存在するかどうか、またはディスクがブートディスクまたはアプリケーションの論理ディスクとして使用されているかどうかを判別できません。

raidconfig を使用してボリュームを作成する (既存のデータが上書きされます) 前に、オペレーティングシステムのツールを使用して、接続されているディスク、それらの列挙、および保持するデータが含まれているかどうかを調べます。

SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 8 で修正されました。

RAID ボリュームの一部であるディスクを SPARC サーバーから物理的に取り外すと、raidconfig コマンドがハングアップします。

回避方法

1. 次のいずれかを実行します。
 - OS をリブートします (推奨)。
 - 約 10 分間待ちます。
2. raidconfig コマンドを実行します。

SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)

raidconfig を使用して作成した RAID ボリュームが、Oracle ILOM の /STORAGE ターゲットの下に表示されないことがあります。

回避方法

新しく作成したボリュームを表示するには、**raidconfig list all** コマンドを使用します。

3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA の場合、RAID 1 ボリュームの作成に使用できるディスクは 2 台までです。

RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)

RAID ボリュームで init タスクが実行されているときに、その RAID ボリューム内のディスクに対して clear タスクが開始されます。init タスクが終了するまで、clear タスクの完了率が常にゼロを示しています。

回避方法は必要ありません。

SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティーが表示されない (15666684)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA または SGX-SAS6-R-REM-Z の使用時に作成された RAID ボリュームに Mounted プロパティーがありません。raidconfig はマウント済みのボリュームの削除を回避しません。

回避方法

1. raidconfig コマンドを使用して、RAID ボリュームのデバイス名を取得します。
2. mount コマンドの出力で、手順 1 で取得したデバイス名のインスタンスを調べます。
3. mount コマンドの出力にデバイス名が存在する場合、RAID ボリュームは現在マウントされているため、raidconfig を使用して削除しないようにします。
4. 最初に RAID ボリュームをアンマウントしてから、raidconfig を使用してそのボリュームを削除します。

LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)

raidconfig を --name オプションとともに使用して RAID 0/1 拡張モジュール (X4607A) に RAID ボリュームを作成したあと、その RAID ボリュームは正常に作成されているのに RAID ボリューム名が Null のままになっています。

MegaRAID HBA の RAID の読み取り/書き込み キャッシュに使用可能な追加の raidconfig オプション (21098717)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 11 で修正されました。

raidconfig コマンドは、次の LSI MegaRAID ベースの HBA を使用した RAID に対して、更新または追加された読み取り/書き込みオプションをサポートしています。

- Sun Storage 6 Gb SAS RAID PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z, SG-SAS6-R-INT-Z)
- Oracle Storage 12 Gb SAS RAID PCIe 内蔵 HBA (7110116, 7110117)

次の表に示されている更新されたオプション/追加のオプションは、次の raid サブコマンドに適用されます。

raidconfig create raid

および

raidconfig modify raid

更新オプション	説明
--read-cache=disabled enabled enabled_adaptive	■ Disabled - RAID 読み取りキャッシュを無効にします。 ■ Enabled - RAID 先読みキャッシュを有効にします。 ■ Enabled_adaptive - 読み取り適応キャッシュを有効にします。
--write-cache=disabled enabled enabled_protect	■ Disabled - RAID 書き込みキャッシュを無効にします。 ■ Enabled - RAID 書き込みキャッシュを有効にします。 ■ Enabled_protect - バッテリーが使用可能な場合にのみキャッシュを有効にします。

raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe (内蔵または外付け) HBA が取り付けられているシステムで、`--level=10` オプションを指定した `raidconfig` を使用して RAID 10 ボリュームを作成しようとする、`ERROR: RAID level not supported by controller` というメッセージが表示されます。

回避方法

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵または外付け) の FCODE バージョン 1.00.65 は RAID 10 をサポートしていません。RAID レベル 1e で使用される偶数 (4 以上) 番号または奇数 (3 以上) 番号のディスクはサポートされます。RAID レベル 10 の代わりに RAID レベル 1e を使用してください。

たとえば、システムの 4 つのディスクに RAID 1e ボリュームを作成するには、次のように入力します。

```
raidconfig create raid --level=1e -d c0d0,c0d1,c0d2,c0d3
```

この RAID ボリュームは、`raidconfig` では RAID 1e として表示されますが、HBA の構成ユーティリティ (`sas2ircu`) では RAID 10 として表示されます。

これは、FCODE バージョン 1.00.65 を使用する Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA では予期された動作です。

Hardware Management Agent および SNMP の既知の問題

問題	回避方法
38 ページの「Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)」	あり
38 ページの「Storage MIB の <code>snmpwalk</code> によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)」	なし
38 ページの「SNMP トラップの問題」	あり
39 ページの「Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する」	あり
39 ページの「ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)」	あり
39 ページの「SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電流センサーが間違って分類される (15687547)」	あり
40 ページの「 <code>sunHwMonFruStatus</code> がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)」	あり

問題	回避方法
40 ページの「SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (15566455)」	あり
40 ページの「SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない」	なし
40 ページの「ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (15675490)」	あり
41 ページの「sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)」	なし
41 ページの「SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)」	あり
41 ページの「Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)」	あり

Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが生成されない (15686011)

Oracle ILOM で次のタイプの SNMP トラップは生成されません。

- ホストの状態変化に関して報告されるイベント
- 障害処理に関連するイベント
- プラットフォーム上のコンポーネントの存在の状態変化に関連するイベント

回避方法

この情報には、Oracle ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)

SPARC システムで snmpwalk コマンドを Storage MIB とともに使用すると、ストレージ情報が表示されますが、出力の終わりにエラーメッセージまたはタイムアウトを受け取る可能性があります。

このエラーメッセージは無視しても差し支えありません。

SNMP トラップの問題

- 一部のプラットフォームで sunHwTrapProductName が空の場合があります。
- サービスプロセッサで Oracle ILOM 2.0 が実行されている場合、sunHwTrapSystemIdentifier は空です。
- sunHwTrapAssocObjectId が常に SNMPv2-SMI::zeroDotZero に設定されます。

- `sunHwTrapComponentName` が、Oracle ILOM で使用される名前ではなくコンポーネントの IPMI 名に設定されます。
- Sun Fire X4200 M2 サーバーで、Hardware Management Agent が、`sunHwTrapSlotOrConnectorOk` または `sunHwTrapSlotOrConnectorError` の代わりに `sunHwTrapComponentOk` または `sunHwTrapComponentError` を送信しますが、それらは Oracle ILOM によって送信されるものです。

回避方法

この情報には、Oracle ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する

Sun Blade X6250 サーバーモジュールで古いサービスプロセッサファームウェアを使用して Hardware Management Agent を実行すると、間違ったサービスプロセッサのバージョンが報告されます。

回避方法

最新のファームウェアにアップグレードすることをお勧めします。

ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)

ブレードシャーシの共有現場交換可能ユニット (FRU) 上のセンサーの `sunHwMon... SensorParentFruName` が間違って `/SYS` に設定されています。

回避方法

Oracle ILOM を使用して、これらのセンサーの正しい親の名前を確認します。

SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリート電流センサーが間違って分類される (15687547)

SPARC T3 シリーズサーバーで、ディスクリート電圧センサーが間違って分類され、`sunHwMonDiscreteCurrentSensorTable` ではなく `sunHwMonDiscreateOtherSensorTable` に一覧表示されます。

回避方法

`sunHwMonDiscreateOtherSensorTable` を使用してディスクリート電圧センサーを表示します。

sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)

sunHwMonFruStatus で表されるコンポーネントのステータスは、そのコンポーネント上のセンサーの累積ステータスです。このステータスは、Oracle ILOM のコンポーネントステータスとは異なる場合があります。

回避方法

Oracle ILOM をチェックして、コンポーネントに障害が発生しているかどうかを判断します。

SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (15566455)

一部のプラットフォームで、システムに存在しない DIMM が sunHwMonInventoryTable に示されます。

回避方法

FruDescr、FruPartNumber、FruSerialNumber、および FruManufacturer オブジェクトを表示します。これらの値が入力されていれば、それらの DIMM はシステムに存在します。値が入力されていなければ、存在しない DIMM を示しているため、無視しても差し支えありません。

SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない

プラットフォームの制約のために、ホストに物理的に存在しないディスク用のセンサーが sunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable に含まれていることがあります。これらのセンサーの ParentFruIndex は -1 であり、センサーの最後に STATE-HIDDEN が付いています。これらのセンサーは無視しても差し支えありません。

ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (15675490)

最新リリースの Oracle ILOM で定義されたすべてのデバイスタイプがホストエージェントによって認識されるわけではないため、結果として、ホストエージェントがデバイス固有の通知 (sunHwTrapSlotOrConnector など) ではなく、一般的な sunHwTrapComponent 通知を生成する場合があります。これは、スロットやコネクタではなくコンポーネントエラーが原因です。

回避方法

MIB からの NAC 名を使用して、通知の対象となる特定のデバイスを調べます。

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントではなくデバイス名を報告します。

SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)

SPARC T3-2 サーバーの DiskOSDeviceName が OSDeviceName として 02000000:0 および 02000000:2 を報告します。ホスト OS 上にそのような名前はありません。

回避方法

マルチパスディスクの場合、raidconfig はフルパス名の代わりにデバイスの WWN のみを返します。format コマンドは、このデバイスのフルパス名に WWN が組み込まれたものを返します。デバイスを相互に関連付けるには、WWN を使用します。

例:

- これは raidconfig を使用して得られるデバイスに関する情報です。Device:
5000CCA00A49BC1C
- これは format コマンドを使用して得られるデバイスに関する情報です。Device:
c0t5000CCA00A49BC1Cd0

Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)

1 台の物理ディスクが 2 台のコントローラにデュアルパス化されている場合に、sunStorageDiskTable が単一のディスクインスタンスのみを表示します。

回避方法

Oracle ILOM を使用して、ディスクに関する正しい情報を確認します。

ストレージビューアの既知の問題

問題	回避方法
42 ページの「Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (15645766)」	なし
42 ページの「Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)」	なし
42 ページの「Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティが正しくない (15584958)」	なし
43 ページの「write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)」	なし

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (15645766)

この問題は Oracle Solaris 11.2 SRU 8 で修正されました。

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの使用時に、Oracle ILOM の /STORAGE の下に FDOM が表示されません。

Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) を搭載した、RAID 1 (ミラー化) RAID 用のグローバルホットスペアが構成されている Oracle Solaris システムで Storage Management Agent を使用しているときに、ディスクの詳細が専用ホットスペアとして表示されます。

Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティが正しくない (15584958)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の max_disks プロパティがストレージビューアに間違って 0 として表示されます。

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)

write_cache_enabled プロパティは Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できません。

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用

次の各セクションには、SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーで Oracle Hardware Management ツールを使用するための特定の情報が記載されています。

- [43 ページの「ilomconfig \(16369886\)」](#)
- [45 ページの「hwngmtcli \(16507559\)」](#)
- [45 ページの「itpconfig \(16508501、16507898\)」](#)
- [45 ページの「hwngmtd \(15824059、15824037\)」](#)

ilomconfig (16369886)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーのシャーシには、1 組のデュアル冗長 SP (SP0 および SP1) が格納されています。さらに 4 台の SP プロキシ (SPP0、SPP1、SPP2、SPP3) も搭載されています。

ホスト OS は SP からすべての Oracle ILOM プロパティに直接アクセスできるわけではなく、ilomconfig ではなく Oracle ILOM を使用して SP から Oracle ILOM プロパティにアクセスする必要があります。

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、Oracle Solaris ホスト OS は SPP で動作します。ilomconfig は、Oracle Solaris ホスト OS から Oracle ILOM SPP にアクセスします。

次の表で、SP と SPP のプロパティを説明します。

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SP0、SP1 (冗長サービスプロセッサ)	これらは、標準の Oracle ILOM プロパティをすべて備えた主要なサービスプロセッサです。SP は SPP を管理します。	Oracle ILOM

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SPP0, SPP1, SPP2, SPP3 (サービスプロセッサプロキシ)	各 SPP はドメイン構成可能ユニット (DCU) をモニターします。ホスト OS は SPP で動作します。	ilomconfig

関連項目:

- [44 ページの「SPARC サーバー M5-32 および M6-32 の SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティ」](#)
- [44 ページの「SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーのプラットフォームでサポートされている ilomconfig コマンド」](#)

SPARC サーバー M5-32 および M6-32 の SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティ

次の表に、SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーの SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティを示します。

Oracle ILOM のプロパティ	ilomconfig の機能
/SP/config	エクスポート、インポート
/SP/users	ユーザー
/SP/services/snmp/communities	SNMP コミュニティ
/SP/network/pending	ネットワーク管理 (読み取り専用)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーのプラットフォームでサポートされている ilomconfig コマンド

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、次の ilomconfig サブコマンドおよびターゲットがサポートされています。

- list サブコマンドのターゲット:
 - system-summary
 - network
 - network-ipv6
 - interconnect
 - identification
- enable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- disable サブコマンドのターゲット:

- interconnect
- modify サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
 - identification
- create サブコマンドのターゲット:
 - 資格証明
- delete サブコマンドのターゲット:
 - 資格証明

hwmgmtcli (16507559)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーなどのマルチドメインシステム用に新しいサブシステムが追加されました。

dcu - DCU サブシステムの詳細を表示します。

SPARC M5-32 システムおよび M6-32 システムの場合、Oracle ILOM によって診断された open_problems は、PDOM ホストで hwmgmtcli によって報告されません。また、health および health_details の情報が表示されないか、信頼できない可能性があります。

itpconfig (16508501、16507898)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、障害のあるプロキシを使用可能にできません。これらのサーバーの SPP には Oracle ILOM のアラート管理が備わっておらず、SP と OS 間のホストと ILOM の相互接続も存在しないため、このツールを機能させる方法がありません。

hwmgmd (15824059、15824037)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、hwmgmd を使用してストレージ情報を Oracle ILOM に提供できますが、hwmgmd の SNMP 機能は誤りのあるデータを提供するため、使用しないでください。

